

2024年環境目標

環境ビジョン2050		2024年度環境目標
2050年目標	2030年中期マイルストーン	
自社の脱炭素化 GHG排出量ネットゼロに挑戦	自社の低炭素化 CO2排出効率2008年比50%改善	<p><運航効率(燃費)改善策の強化></p> <ul style="list-style-type: none"> 減速運航によるCO2排出削減 AI技術活用の性能解析による運航管理の高度化 <p><低炭素・脱炭素燃料の導入検討></p> <ul style="list-style-type: none"> LNG、アンモニア等燃料船の導入検討 バイオ燃料等のカーボンニュートラル燃料の使用 <p><自動カイトシステムSeawingの実証と普及への貢献></p> <ul style="list-style-type: none"> 風力推進補助システム「Seawing」の開発及び実装 <p><その他新技術の検討と導入></p> <ul style="list-style-type: none"> 新造船建造計画にて省エネ機器・付加物(水エマポイラー・インバータ等)の採用を検討する AI解析技術を用いUWC(Under Water Cleaning)を最適なタイミングで実施。 メタンスリップ、N2Oの排出を抑制する仕様を検討する。 船上CO2回収技術の検討 <p><陸上の取り組み></p> <ul style="list-style-type: none"> 陸上事業所での電力総使用量及び使用電力に伴うGHG排出量を目標値(上半期200,000kwh<88.2t-CO2>、下半期201,000kwh<88.6t-CO2>)以下にする。 再生エネルギー由来電力の導入促進 自社ターミナルにおける荷役機器のハイブリット化によるCO2削減
社会の脱炭素化支援 社会の脱炭素化を支える新しいエネルギー 輸送・供給の担い手に	社会の低炭素化支援 社会の低炭素化に向けた新しいエネルギー 輸送・供給の推進活動の強化	<p><社会の低炭素化に貢献する新ビジネスの展開・拡大></p> <ul style="list-style-type: none"> 水素・アンモニアの利活用に関する、国内外の団体への加盟を通じて、輸送事業者としてサプライチェーン構築に貢献する。 大型液化水素運搬船を使用した商用化実証事業に参画し、商用レベルでの社会の水素利活用に向けて活動 <p>・洋上風力発電等の再生エネルギー関連やCCUS案件の事業開発、実証事業への参画</p> <p>・CNP(Carbon Neutral Port)実現に向けた取組みを促進、各港CNP検討会への参加および事業検討する。</p> <p>・船舶向けLNG燃料供給事業の継続及びアンモニア燃料供給船の検討</p>
自社からの海洋・大気への環境影響の限りないゼロ化 ・油濁事故ゼロ ・船舶運航における海洋・大気への環境影響の限りないゼロ化	自社の海洋・大気への環境影響低減 油濁事故ゼロを含む船舶運航における海洋・大気への環境影響低減	<p><油濁事故ゼロのための取り組み推進></p> <ul style="list-style-type: none"> 安全管理システム(SMS)を適正履行し、船舶からの漏油等の発生件数ゼロ 船質改善活動のための検船:170隻/年 安全運航Circularを各船主に発信することによる安全運航の注意喚起 過去の漏油事故を教訓とした安全キャンペーンの実施(年150隻) 油濁防止のための設備・機器搭載の検討等、本船設備の機器からの油濁事故を防止するための対策実施 テクノロジーや最新技術を活用した、安全運航の推進 <p><船舶運航における環境影響低減></p> <p>海洋環境への影響を最低限に抑える対策</p> <ul style="list-style-type: none"> バラスト水の保有量の最少化 条約および地域規制の動向を注視し、船種・航路に合った最適なバラスト水処理装置の設置及び技術的サポート強化 海洋生物への環境影響を低減する船舶の建造を検討 環境配慮型塗料(低摩擦塗料)等、海洋汚染への影響の少ない防汚塗料の採用を検討 <p><船舶から発生する大気汚染物質の低減(黒煙, PM,CO2,SOx,NOx)></p> <ul style="list-style-type: none"> 新造船や既存船に受電設備(COLD IRONING)設置の検討 入港時の排ガス回収トライアルの実施 蓄電池採用の検討 低硫黄燃料油を使用するための設備の検討 新造タンカーへVOC(揮発性有機化合物)排出抑制装置の検討 <p><船舶で利用する消費資源の最少化と廃棄物の最少化></p> <ul style="list-style-type: none"> 船内荷役資材の補修による再利用を含めた船内で発生する廃棄物の分別及び陸揚げリサイクルの促進 Garbage Management Planの適正運用し、本船からの廃棄物発生量の削減

2024年環境目標

環境ビジョン2050		2024年度環境目標
2050年目標	2030年中期マイルストーン	
		<p><陸上における環境影響低減> 陸上事業所で利用する消費資源の最少化と廃棄物の最少化 ・陸上事業所での従業員一人当たりの水道水使用量の削減 ・ペーパーレスの推進による従業員一人当たりのOA用紙使用量の削減 (上期 800枚/下期 700枚以下にする。) ・陸上事業所における廃棄物の削減:リサイクル可能な容器包装廃棄物の分別 促進(リサイクル率87%) ・グリーン調達促進:調達率70%</p> <p><乗組員/構成員への環境研修・教育の実施> ・各種セミナー、環境E-learning 教育(年1回)の実施 ・社内外セミナーへの積極的参加 ・乗船前ブリーフィングでの管理者教育 ・Kline Maritime Academyでの各種研修の実施</p> <p><ステークホルダーとの対話促進> ・当社環境施策の開示・発信内容(統合報告書・ウェブサイト他)の充実と説明 機会の拡大</p>
<p>社会の環境改善支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会の環境改善支援 ・生態系保護の業界トップ 	<p>社会の環境改善支援</p> <p>社会の環境改善に向けた対話・活動 の強化</p>	<p><グリーン・シップリサイクル対応強化> ・社内方針に基づいたグリーン・シップリサイクルヤードでの解撤</p> <p><海洋プラスチックゴミ回収・調査等参加> ・東京海洋大学と共同で海洋プラスチックゴミの調査・回収活動の実施</p> <p><環境保全ボランティア活動の推進> ・「森林保全活動」もしくは「海岸清掃」の実施</p>